



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

難治性うつ病と感情表出（EE）との関連についての研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 植木, 啓文 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/161

は し が き

これまで、うつ病の予後は一般に良好であると考えられてきた。しかし、予後研究の最近の進歩により、うつ病の予後はこれまで考えられていたほどは良くないこと、つまり、病相を反復する症例あるいは病相が長期間持続する症例が増加していることが明らかとなってきた。

このようなうつ病の慢性・遷延化には様々な要因が影響を与えており、これまで、病前性格、状況上の困難、人格障害の合併、不良な家族関係、負荷的な出来事、不合理な薬物治療、患者-治療者関係などが多くの研究者によって指摘されてきた。

本研究では、まず、感情表出 (Expressed Emotion:以下EEと略す) をこれらの要因の中の一つとして仮定する。このEEは、分裂病においては再発にかかわる要因としてすでに検証されているが、うつ病においては、これからの研究の集積が待たれている段階である。うつ病の慢性・遷延化においてEEがどのような意味を持つのかを検証し、さらにEEに与える心理教育の役割についても検討したい。

研究組織

研究代表者：植木啓文（岐阜大学医学部附属病院講師）

研究経費

平成5年度	1,200千円
平成6年度	600千円
計	1,800千円